



## 第50回大竹市医師会定例総会

50周年を迎える

第50回大竹市医師会定例総会は平成17年3月25日、大竹会館において開催された。議事に先立ち昨年4月25日に亡くなられた故道中信也元会長に対し黙とうが捧げられた。会長挨拶で、坪井信治会長は「故荒田敏昌初代会長が10年、故青柳秀一郎会長が22年、松前良会長が6年、故道中信也会長が4年、松浦義和会長が6年務められた後を私が昨年から引き継いでいます。本年5月20日に大竹市医師会は設立50周年を迎えますので、本日の総会も第50回目ということになります。今後も会員の皆様のご協力を得て、着実に歩み続けたいものと念願する次第であります」と挨拶した。

会員総数74名のうち出席者33名・委任状32名で総会の成立が確認され、弘中和彦議長・二階堂融副議長のもと議事が進められた。医師会本体の予算の他、医師会関連事業(訪問看護ステーション、居宅支援事業所、ヘルパーステー

ション、デイサービス)の予算及び新年度の事業計画等が順当に可決された。平成16年度からデイセンター設立時借入金(の県医師会への返済)が始まっており、平成17年度から医師会員の融資に対する返済が始まる。また、本年5月20日に大竹市医師会は設立50周年を迎えるが、これに関連した事業に対する予算も組み込まれたものになった。50周年記念式典、50周年記念誌発行、大竹市に対する記念品贈呈(全自動除細動器2台)等が行われることになっている。

総会終了後の懇親会では、旧国立大竹病院と旧国立療養所原病院の統合(7月1日から「広島西医療センター」と改称)や松浦義和前会長の横殿賞受賞等の話題で和やかに歓談が行われた。

大竹市医師会広報担当理事

荒田 敦



# 平成16年度 松永沼隈地区医師会総会報告



榎谷 義美  
松永沼隈地区  
医師会長

松永沼隈地区医師会は平成17年3月26日(土)午後6時30分から松永沼隈地区医師会保健福祉センターにおいて、平成16年度定時総会を開催した。廣岡明美議長による開会宣言ののち、出席者数の確認が行われ、全会員数76名中、出席者38名、委任状34名で総会の成立が確認された。議事録署名者指名に引き続き、榎谷義美会長の挨拶があった。

このあと、同センター居宅介護支援事業所職員の入社紹介および挨拶、その後、議案に移り、石井直文代議員による県代議員報告、各担当理事による平成16年度事業報告および平成17年度事業計画、橋高論會計担当理事による平成17年度歳入・歳出予算案について、それぞれ協議が

行われ、満場一致をもって異議なく承認可決した。

引き続き、次期会長選出となった。新会長選出については小川一三先生および藤井 知先生により榎谷義美現会長の再任の推薦があり、再任が満場一致で採択された。また、中村紀明副会長の退任を受けて、和田 玄理事が新たに副会長として選出された。

総会終了後の懇親会は、同センターにおいて、午後7時15分から開催された。夫人も同席の上、総数37名の懇親会となり、おおいに盛り上がった。

(文責 広報担当理事 錦織修道)

混合診療が解禁されると

保険のきかない  
診療が増える…



それなりの  
治療しか  
受けられない。

現在の日本の医療制度では、医療費の一部を患者さん本人が負担し、それ以外は健康保険で賄っていました。いま、政府は国民にもっと多く負担してもらう方法として、今まで、患者の平等を守るために禁止されていた混合診療を解禁しようとしています。混合診療とは、健康保険の診療と保険のきかない診療が同時に行われることで、解禁されることにより健康保険の適用範囲の縮小や自由診療部分の自己負担(金額)が大幅に増えることになり、また、お金の有る無しで医療の内容が変わってくる恐れもあります。すべての国民がいつでも、どこでも、公平・平等に低負担で医療を受けられ、世界で最も優れていると評価されている医療制度が、「お金のない人はそれなりの医療で我慢しなさい」という国民いじめの医療制度へと変わろうとしています。

**私たちは、混合診療解禁に断固反対します!!**